祝 敬老の日

令和5年9月18日(月)

これからもお元気で

9月の第3月曜日は、国民の祝日の一つである「敬老の日」です。
多年にわたり、社会のために尽力してこられた高齢者を敬い、その長寿を祝う日です。
先日、厚生労働省が発表した令和4年の平均寿命は、女性は87.09歳で世界第1位、男性は81.05歳で世界第4位でした。

※同意をいただいた方を掲載しています。(敬称略)　※令和5年9月1日を基準とし、令和5年8月17日現在、生年月日順で掲載しています。

本市では、毎年9月1日現在で、本市に住所を有し1年以上経過している満88歳および満100歳以上の高齢者に対し、長寿を祝福し敬老金(1万円)を支給しています。
また、100歳の誕生日を迎えられた方には、特別敬老金(5万円)を支給しています。

重永　妙子(109歳)【入来】

皆さんに大変お世話になりながら長生きできました。〝ありがとう〟そして感謝感謝の毎日です。

小西　アキ(108歳)【入来】

皆さんのおかげで、とても元気です。ご飯もおいしいか！ありがとうございます。

湯丸　ミキ(108歳)【祁答院】

みんなとおいしく食べて、楽しく生活できることがうれしいです。みんなと過ごすことが長生きの秘訣です。

一〇六歳
澁谷　チミ　祁答院
桐野　スミ子　樋脇

一〇五歳
後藤　トキエ　川内
寺脇　シヅエ　川内
田平　操　川内
別府　タツミ　川内
森　モヨ　川内

一〇四歳
田中　キリ　川内
西原　静乃　川内
小牟田　ツル子　樋脇
上村　イノ　樋脇
土器手　恵美子　上甑

一〇三歳
窪田　キヨ子　川内
平佐田　アキ　川内
福田　キクエ　川内
小川　シズ子　川内
鮫島　三寶子　川内
田中　ハツヤ　川内
上鵜瀬　イク　東郷
永田　サチ　川内
愛甲　松子　川内
入江　トワ　川内
大迫　小富　川内
柳　ヨネ　上甑
愛甲　嘉子　川内
堀之内　俊秀　川内
瀬戸東　サミ　川内
石原　立枝　里

一〇二歳
大迫　カツ子　川内
前園　フミ子　川内
中村　政美　川内
牛島　國子　川内
上村　ノブ　川内
濵田　鈴子　川内
堂元　キクヨ　川内
岩重　モトエ　入来
西園　ナルエ　川内
下永田　ナツエ　入来
西原　トキ　川内
山里　常雄　川内
鍛治屋　チリ　川内
井上　よし子　東郷
川畑　惠美子　川内
三角　アキ　川内
梅田　シヅ　川内
鍋倉　イセノ　東郷
岩下　ミツ子　川内
井上　ナギ　樋脇
坂元　ノリ　川内
今久保　雪　川内
福崎　藤　入来
高橋　よね　川内
戸川　ムツ子　川内
平山　久江　川内
中山　十八子　祁答院

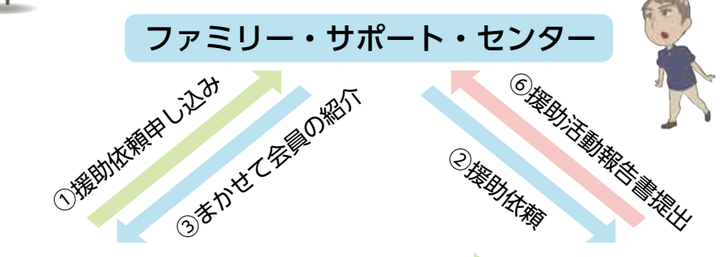
一〇一歳
加治屋　久子　入来
柚木　昌江　川内
廣田　アリ子　祁答院
中山　ツヨ　東郷
中村　ナナミ　下甑
田中　ケサノ　川内
樗木　リキ　東郷
中原　二四　東郷
橋野　咲枝　鹿島
松元　知喜子　川内
吉田　クミ子　下甑
鳥越　傳　樋脇
瀧聞　アツ子　川内
國分　アキノ　川内
湯田　只志　川内
山下　ノリ　樋脇
坊野　あや子　入来
有馬　満子　川内
濱崎　ヤエ子　川内
上萬　シツ　川内
大森　ツマ　川内
車田　ハルエ　川内
兒玉　イソ　東郷
上薄　政子　東郷
南　モミエ　下甑
田尾　多美子　東郷
小田原　マツエ　川内
久保田　佐知　川内
廣田　ヱミ子　川内
長野　政　川内
青崎　マツエ　川内

一〇〇歳
別府　重盛　川内
塩田　エキ　樋脇
兒玉　知美　川内
宅間　輝子　祁答院
相良　ミヤ　東郷
西俣　敦士　入来
德留　千和　祁答院
濵田　ヲヒナ　上甑
金貝　ノキ　樋脇
明日山　シヅ子　樋脇
倉園　ノリ　東郷
宮園　吉子　川内
大迫　ハツノ　川内
山元　孝　東郷
斧淵　ミサ　川内
山元　静子　川内
木之元　綾子　川内
草留　アリ　樋脇
宍野　ミホ　川内
二ノ方　ミツ子　川内
堂路　スミ　東郷
久保　ナミエ　東郷
紫尾田　トチ子　川内
寺地　スナ　川内
坂元　初美　東郷
山口　ミツエ　入来
中野　八重子　下甑
森田　スミ子　川内
井前　ヱミ子　川内
瀬口　ミヤ　東郷
知識　德子　川内
山口　一之　祁答院
泰平　フヂ　樋脇
藤崎　ヨシノ　入来
村尾　ミト　東郷
迫　ノイ　川内
山元　数巳　樋脇
初田　藤一　祁答院
山之内　スミ　東郷
須賀　ミヱ　川内
花増　壽美惠　川内
鬼塚　文子　川内
畠中　レイ　川内
尖　サチ　川内
坂下　ミキ　樋脇
中能　テル　上甑
德永　喜右衛門　川内
大井　ヨシ子　樋脇
川畑　スキコ　川内
松山　イサ子　祁答院
井上　正己　川内

問合先／本庁 高齢・介護福祉課高齢者福祉G　(内線 2674)

皆さんは、「ファミリー・サポート・センター」をご存じでしょうか。「これから子育てが始まるけど不安だ」「子育て真最中の人を応援したい」など子育てを地域で相互援助する活動が全国的に行われているそうで、県内には、本市を含め、20カ所存在します。
そこで今回は、ファミリー・サポート・センター薩摩川内へ潜入！どのような制度なのか、実際利用している方のお話など、ご紹介します。

ファミリー・サポート・センターとは、子育てのお手伝いをしてほしい方(おねがい会員)と子育てのお手伝いをしたい方(まかせて会員)が、会員になって、有償ボランティアで助け合い(相互援助活動)を行う会員組織です。
本市では、「おねがい会員352人」、「まかせて会員　35人」の方が登録しています。(令和4年度)



▲制度の仕組み

具体的にどのような仕組みなの？

どんなときに利用できるの？

「保育施設まで子どもを送迎してほしい」「病気や急な用事のとき、子どもを預かってほしい」など、一時的な手助けがほしいときに対応することで、市民の皆さんが安心して子育てができるよう活動しているそうです。

○「おねがい会員」のUさん

お子さんの習い事の送迎が仕事の時間と重なったことから、周りの方に紹介してもらい、おねがい会員に登録したそうです。
「初めは、まかせて会員の方に失礼がないかとても心配でしたが、最初のマッチングのおかげで、子どもも私自身も安心しています。利用してからは、『しなければならない』と感じることが減り、気持ちが楽になりました。さらに、私たち親に相談しづらいことなどをまかせて会員の方に話しているようで、『お子さんが○○で悩んでいるみたい』と、教えてくれるので、とても助かっています。これからもこの制度を利用していきたいと思います」と話してくれました。

○「まかせて会員」のKさん

自身も周りの方々に支えられながら障害児を育てた経験から、今度は自分が子育てをする方のお手伝いがしたいと考え、まかせて会員に登録したそうです。初めは緊張した様子の子どもたちが、回数を重ねごとに慣れていき、学校の話などをしてくれるとき、とても温かい気持ちになるとのこと。「これからも親御さんが安心してお仕事や家事ができる環境を整えるお手伝いをしたいです」と優しい笑顔で話してくれました。

みんなで助け合う

本市には、子育てを支えてほしい方とお手伝いをしたい方をマッチングさせ、地域で子どもを育てる体制が整っていることが分かりました。
しかし、現状では、おねがい会員の依頼に対してまかせて会員の数が少ないことから、援助を受けるまでに時間を要するなどの課題もあります。
「以前、まかせて会員にお世話になった経験から、今度は自分がお手伝いをする立場になりたい」などの思いで、両方会員として登録し、活動する方もいますが、まだまだ増えてほしいそうです。
助け合いで成り立つ制度。皆さんが安心して子育てができるよう、SSプラザせんだい1階のファミリー・サポート・センター薩摩川内に訪れてみてはいかがでしょうか。

▲詳しくは市ホームページをご確認ください。

皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。
問合先／本庁秘書広報課
企画総務・広聴広報G(内線4122)